

## みみはらグループ

# 新年集会開催



紫苑交響楽団の演奏▶



田端志郎理事長

1月13日、みみはらグループ新年集会を開催しました。ハイブリッド形式で、会場のみみはらホールには職員、友の会会員や来賓の皆さんなど約100人、オンラインは300人以上の参加となりました。

紫苑交響楽団の華やかな弦楽三重奏が響くなか、穏やかな雰囲気が始まりました。

まず、みみはらグループ運営協議会議長で同仁会の田端志郎理事長からは、災

害や戦争、政治や環境問題など昨今の情勢に触れ「連帯は連帯を呼ぶ」と開会挨拶が述べられました。



河原林正敏病院長



江戸道子会長

健康友の会みみはらの江戸道子会長からは、今は復興支援が何より必要であり、万博に傾注する政治のあり方に一緒に声を挙げていきたいと思います。メッセージがありました。

能登半島地震について、石川県七尾市出身でもある耳原総合病院の河原林正敏病院長より、被害の状況が伝えられ、義援金など支援が呼びかけられました。



講演する藤井克徳さん



基調報告では、同仁会の森高志専務理事から「戦争する国」への基盤づくりやそれに関連して社会保障費削減が進められている情勢の中で「みみはら2030年の樹」のビジョンが報告されました。

その後、鳳エリアの建て替え、堺区の地域包括ケア事業、急性期医療を担う耳原総合病院からは、内視鏡手術支援ロボットを導入した今後の医療事業の報告が行われました。

記念講演では、日本障害者協議会代表でさようさんから、「人権・個の尊厳を認め合う社会のあり方を考える」というテーマに講演していただきました。

現在も未決着である優生思想とどう向き合うのか、世界や日本の優生思想の流れやナチスの障害者に対する断種法や虐殺の歴史に医療者の関与があったことも述べられ、本来は人権を守る担い手であるはずの医療者への戒めも含んだ深い学びとなりました。

未来に向けて、日本国憲法や障害者権利条約を活かす社会のあり方を考えるきっかけとなり「原点を大切に」と藤井さんから、みみはらグループへ熱いメッセージをいただきました。

最後に社会福祉法人ひまわり会の岡本裕宏理事長からの挨拶で閉会しました。

## 耳原総合病院

# 手術支援ロボット

## (ダヴィンチXi)を導入



トラックより下ろされたダヴィンチXi



搬入後は手術室でセッティング



コンソールを操作する医師

皆さんは「ロボット手術」をご存じでしょうか？ 当院では2023年12月に手術支援ロボット(ダヴィンチXi)を導入しました。

ロボット手術と聞きますと、あたかも人間に代わってロボットが手術を行うかのようにイメージしてしまいがちですが、手術支援ロボットはあくまで手術を手助けするための機器です。患者さんから離れた位置にあるコンソールとよばれる操作機器を操作する医師(左下写真)の手の動きが、

患者さんの体内でロボットアーム先端の様々な器具の動作につながり、精密な手術を可能とする新しい技術です。今では一般的な治療として普及した腹腔鏡手術や胸腔鏡手術が、格段に進化した技術であるとも言え、近年急速に広がっています。

手術支援ロボットのアイムは極めて精緻な動きが可能ですので、人の手では操作が難しい骨盤の深部での手術が非常にやりやすくなります。外科医にとって手術がやりやすいということは、出血などの手術の合併症が少なくなるといった効果が期待できます。

また、患者さんにとっては手術の傷が小さくなる、術後の回復が早くなる、入院期間を短縮できるなどのメリットがあります。

まずは泌尿器科手術、婦人科手術、消化器外科手術に手術支援ロボットを使用できるよう準備を進めております。

当院はこれからも患者さんにとって有益となる治療の導入を積極的に進めて参ります。

(耳原総合病院 病院長 河原林正敏)